

機関番号：32417
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21730567
 研究課題名（和文） 心理教育・社会福祉サービス領域におけるプログラム評価実践に関する研究
 研究課題名（英文） Analytic investigations of the application of program evaluation methods in psycho-educational/social work practices
 研究代表者
 安田 節之（YASUDA TOMOYUKI）
 西武文理大学・サービス経営学部・専任講師
 研究者番号：00434340

研究成果の概要（和文）：心理教育プログラムや社会福祉サービスに関する評価実践法を調査し、それぞれの特性や実施文脈に沿った評価方法について検討した。一般に、プログラム評価には社会科学における方法論が用いられることが多いが、それらの方法論を活用する以前の段階として、プログラムに関する理論やマネジメント方法の可視化を促進するアプローチが有用であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The main purpose of this research was to investigate the applicability of the methods of program evaluation in the field of psycho-educational/social work practices. Particular attentions have been paid to assess to what degree these methods are generalizable to the contextualized evaluation practices, thereby encouraging (or discouraging) particular approaches to the particular evaluation settings. Findings suggested that although the methods used in social science have most often been applied to evaluating programs, effective adaptabilities of these methods could be depend upon the degree to which programs are practiced based on the theoretical background and managed carefully according to these backgrounds.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：地域援助・プログラム評価

1. 研究開始当初の背景

地域・産業組織・学校のフィールドでは、様々な対人・コミュニティ援助が行われている。そして、それらの援助やサービスをただ単に提供するだけでなく、実施内容や状況、効果の有無を科学的に明らかにすることが重要視されている。このような視点が大切なのは、援助やサービスに客観的根拠(エビデンス)を与え、ステークホルダーに説明責任(アカウントビリティ)を果たすことにつながるからである。

2. 研究の目的

様々なフィールドで実施される心理教育プログラム・社会福祉サービスに関する評価実践法を検討し、プログラムの特性やプログラムが実施される社会的文脈を比較しつつ、各プログラムの実施文脈に沿った評価法のあり方を検討することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1) マネジメントを通じた調査の実施：

本研究では、プログラムのマネジメントを通じてプログラムに携わり、プログラム評価

の手法を検討するなかで、必要となるデータをフィールド調査という形で収集した。具体的には、住民・地域・教育機関の協働による生涯学習プログラムおよび大学における初年次教育プログラムを中心に、ニーズアセスメント、プロセス評価、アウトプットモニタリング、アウトカム評価といった手法のあり方を検討しつつ、マネジメントおよび調査を行った。

(2) 質問紙調査：

社会福祉サービスに関する評価可能性および評価準備性の状況を検討するために、都内の地域包括支援センター（H21年度）および都内の高齢者デイサービスセンター（H22年度）への質問紙調査を行った。

(3) ワークショップ実施による実態把握：

心理教育プログラム・社会福祉サービスの提供主体やマネジメント担当者へのプログラム評価ワークショップを実施し、現場レベルで用いられるマネジメント方法および評価方法に関する実態を把握した。

(4) 文献研究

プログラム評価(program evaluation)に関する関連文献(書籍・論文)を精査し、各プログラムおよび各実施文脈に沿った評価手法を検討した。

4. 研究成果

(1) マネジメントをベースにした調査の結果、生涯学習プログラムおよび初年次教育プログラムとともに、プログラムを実践する上で生じるニーズ(例：介入の即効性、マネジメントの質の向上)は常に評価と関連づけて定義されることが明らかになった。具体的には、「評価」を通じてどのようにプログラムを改善していくか、アカウントビリティを目的とした評価を実施する上では、どのような方法論、評価ツール、技術支援等が必要になるか、という点をマネジメント関係者とステークホルダーの両方の視点から明確化することが重要であることが分かった。

またこれらのプログラムは、実施体制が整備されていれば、比較的スムーズに行えることが確認された一方で、評価の視点を踏まえたプログラムマネジメントについては、プロセスの可視化やアウトカムの設定方法といった技術的な側面に加え、業務や研究の一環として評価を行うためのマンパワーが不足している、という現実的な課題があることも確認された。

(2) 社会福祉サービスの提供主体である地域包括支援センター(都内346箇所)への質

問紙調査のデータを分析した結果(N=174, 回収率50.3%),多くの事業所が評価の必要性および効用性(例:支援の質の向上)を認識しているものの,“何をどう評価してよいか”が明確でない”といった方法論についての課題を抱えていることが明らかになった。また,評価を実践の質向上につなげるためには,評価技術の支援体制の確立および評価に関する組織キャパシティの強化という課題があることも分かった。

また,高齢者デイサービス(都内1198箇所)への質問紙調査のデータを分析した結果(N=302, 回収率25.2%),地域包括支援センターのデータと同様に,利用者へのサービスの質向上に向けた客観的な評価の必要性を認識しているものの,それを実施するための評価技術の知識やスキルが十分に備わっていない現状があることが分かった。また,事業所・プログラムレベルでの活動方針やサービス提供プロセスの明確化,効果測定やアウトカム評価を視野に入れたプログラムマネジメントといった評価可能性の向上につながる取組みは未だ数少ないことも分かった。

(3) 教育機関,コミュニティ心理学,医学教育・家庭医療,産業組織,介護保険サービス事業,地域コミュニティの団体といった様々な領域におけるプログラムの実践者,サービスの提供者(提供主体),マネジメント担当者,研究者等に対してワークショップを実施し,それぞれのフィールドにおけるプログラム評価実践の実態を把握した。

その結果,通常社会調査や心理・教育測定の枠組みを有機的にプログラム評価に応用するためには,プログラムの可視化技術(例:プログラムの活動方針やゴール設定,インパクト理論構築,ロジックモデル開発,アウトカム指標作成)が不可欠であり,これらの技術をプログラムマネジメントの段階で導入することが,評価可能性を高めるために有用であることも分かった。

(4) 文献研究では,主に米国の関連論文および書籍を検討した。これらの結果を,上記の研究成果と合わせて,「プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために」(新曜社)として出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 安田節之(2010)「プログラム評価の意義と展望:方法論の視点から」人事試験研究, 214, 2-15.

② 安田節之 (印刷中) 「対人・コミュニティ援助の質を高めるプログラム評価のあり方」
コミュニティ心理学研究.

③ 安田節之・武田信子 (印刷中) 「今, なぜプログラム評価なのか, 分科会 D (地域コミュニティ領域) の報告」
コミュニティ心理学研究.

[学会発表] (計 8 件)

① 安田節之 (2009, 6 月) 「個別事例のロジックモデリングによるプログラム評価手法開発の試み」第 1 2 回日本コミュニティ心理学学会大会 (於: 東北大学)

② 安田節之・渡辺直登 (2009, 9 月) 「プログラム評価: テスト科学からのアプローチ」日本テスト学会第 7 回大会 企画セッション: テスト科学とプログラム評価の接点 (テスト科学の社会的貢献を目指して) (於: 名古屋大学)

③ 安田節之 (2010, 5 月) 「医学教育プログラムの評価: 評価モデルと方法論からの考察」第 3 6 回医学教育セミナー・ワークショップ (於: 東邦大学)

④ 大西弘高・安田節之 (2010, 5 月) 「教育プログラム評価」第 3 6 回医学教育セミナー・ワークショップ (於: 東邦大学)

⑤ 安田節之 (2010, 7 月) 「準実験デザインによるプログラム評価の方法と応用」医学教育学会第 4 2 回大会 パネルディスカッション I V (教育プログラム評価) (於: 都市センターホテル)

⑥ 安田節之 (2010, 7 月) 「実践活動を補完する評価の視点」第 1 3 回日本コミュニティ心理学学会 研究・研修・倫理委員会合同企画ワークショップ 「今, なぜプログラム評価なのか」 (於: 立教大学)

⑦ 安田節之・武田信子 (2010, 7 月) 第 1 3 回日本コミュニティ心理学学会 研究・研修・倫理委員会合同企画ワークショップ 「今, なぜプログラム評価なのか」 分科会 D. 地域コミュニティ領域 (於: 立教大学)

⑧ 大西弘高・矢野桂子・安田節之 (2011, 2 月) 「プログラム評価: 測定の難しい取組みの良し悪しを決めるには?」第 6 回若手医師のための過程医療学冬季セミナー

[図書] (計 1 件)

① 安田節之 (2011) 「ワードマップ プログラム評価: 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」新曜社. [264 頁]

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 ()

研究者番号:

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号: